

2017（平成29）年度事業報告

1. 教育交流・派遣事業

①5カ年計画となる「宋慶齡基金会との新たなプロジェクト＝山東省泰安市東平県との教育交流事業」の3年目としての取り組みを進めました。具体的には、2018年度に行う「第17次教育訪中団」の実施に向けて、中国宋慶齡基金会・山東省泰安市東平県教育局と話し合いを行いました。「音楽教育の交流・音楽教育の支援を踏まえたプロジェクトの成果が確認できる」そういった訪中団とするために、計画の具体化を進めています。訪中団の受入については、宋慶齡基金会より承諾を得ています。

2. 教育交流・受入事業

①10月29日（日）～11月1日（水）の4日間、静岡県磐田市を中心に、「第4次宋慶齡基金会教育交流代表団」の受入を行いました。「宋慶齡基金会及び基金会が推薦した東平県の音楽教師と音楽教育を中心とした教育交流・研修を行う。」「第2回日中音楽教育交流会を開催する。」を、具体的な目的として行いました。訪日代表団は、宋慶齡基金会基金部項目総合所長の劉さんを窓口に、山東省泰安市東平県教育局の全面的な協力の下に編成されました。また、「第2回日中音楽教育交流会」については、第1回と同様に、日本中国国際教育交流協会・中国宋慶齡基金会・東平県教育局の三者の共催という形で行いました。団の編成は、宋慶齡基金会より2名、山東省泰安市東平県教育局より1名、東平県の小学校校長1名、教諭3名の計7名でした。代表団の受入については、協会の理事でもある静岡県教組の鈴木委員長の全面的な協力を得て行いました。音楽交流会は、昨年度「第1回交流会（東平県で開催）」に参加していただいた神谷校長先生・安藤主幹教諭の勤務する磐田市立富士見小学校を会場に行いました。また、ヤマハピアノ工場の見学、静岡県知事と磐田市長・教育長への表敬訪問も行いました。日本の学校教育への理解という意味でも、また、音楽の授業実践を通しての学び合いという意味でも、大いに成果があったと感じられました。

3. 教育交流・支援事業

①「宋慶齡基金会との新たなプロジェクト＝山東省泰安市東平県との教育交流事業」の3年目として、引き続き山東省泰安市東平県への教育支援を行いました。一つには、「第2回日中音楽教育交流会」という形での音楽教育の研修会を、宋慶齡基金会を通して東平県の教育局と打ち合わせる中で日本で実現させました。二つ目としては、東平県教育局の要望を、宋慶齡基金会を通して具体的に把握する中で、東平県下の小学校への楽器等の寄贈を決定しました。今年度教育支援費100万円については、「第2回日中音楽教育交流会」の実施のための諸経費（訪日費用の一部）と楽器の購入費に充てることが確認され、8月上旬の協定締結後、宋慶齡基金会を窓口として東平県へ送金しました。

4. 教育交流・研究等助成事業

①中国人等外国人日本留学生は、年々増加しています。日本を理解し、日本と母国との友好を担える人材育成の必要性が増大しています。中国からの留学生のほとんどは、日本語学校に通学していますが、特に入学初年度は、語学力も十分でなく、学業のみならず生活面でも困難に直面している学生も多いと言われています。こうした留学生

の語学力の向上をめざし、また日本をより良く理解する人材を育成するために、教育交流・研究等助成事業として第6回となるホームステイ事業を8月4日（金）から6日（日）の2泊3日の日程で、千葉県で実施しました。最終日のまとめの会での発言の中にも、終了後提出してもらった報告書や感想文を読んでも、このホームステイの取り組みが、留学生・ホストファミリーのどちらにとっても交流・理解・信頼の進展に大いに役立ったことが確認できました。

②教育現場や個人・団体の国際教育交流活動を活発化させ相互理解を深めるための取り組みとして、「第3回日中教育文化交流シンポジウム」を、3月3日（土）に日本教育会館9階会議室で開催しました。今年度も日本語作文コンクールへの取り組みとも関連させる中で、日本と中国の若者の意識に焦点を当て、両国の歴史性を踏まえた関係認識を考えていくそんなシンポジウムとして実施しました。日中の若者・教職員・協会関係者・マスコミ関係者等で、約90名ほどの参加がありました。パネラーには、今年度の日本語作文コンクール最優秀賞の宋妍さんと、過去の入賞者で日本に留学・就職している2名と、中国への留学経験のある日本人学生3名を選びました。また基調講演は、衆議院議員で中国への留学経験もあり、日中友好議員連盟幹事長でもある近藤昭一先生に「日中関係と若者の役割」という演題で行っていただきました。日中を中心とする教育文化交流活動を活発化させるための、大きな意味ある取り組みとして成果を上げることが出来たと思います。

③2017年度第13回日本語作文コンクール（日本僑報社主催、外務省・在中国日本大使館後援、朝日新聞社など協賛）には、中国全土の省市区の189校から4031編の応募がありました。募集する作文のテーマは、昨年引き続き3つでした。今年度は日本と中国の国交正常化45周年の節目の年に当たることから、これを記念して、日中関係のさらなる深化・発展の一助になり得るような意見や提言のある作文を募集したとのことでした。テーマは、（1）日本人に伝えたい中国の新しい魅力（2）中国の『日本語の日』に私ができること（3）忘れられない日本語教師の教えでした。

日中関係は、今日その結びつきや影響力が益々進化・発展して来ていると思います。そのことを踏まえ、中国の若者ならではの主張や、新鮮な本音がうかがえるような意義のあるテーマが選ばれていると思いました。協会は積極的にこの事業を後援し、毎年最終審査員に加わり、日本中国国際教育交流協会賞（教育賞）2編を選出しています。本年度の教育賞は、林雪婷さんの「故きを温ねて新しきを知る」と、邱吉さんの「日本人に伝えたい中国文化のソフトパワー」でした。

5. その他の活動

- ①今年度は理事会を3回、評議員会を2回、監査を1回開催しました。
- ②広報関係では、2018年3月に『会報24号』を発行し、「共生力」は、26（4月）・27（11月）号を発行しました。
- ③財政確立に向けての賛助会員の取り組みは、11万円ほど集まっています。
- ④懸案となっていたリースの解約については、会計事務所と相談する中で、事務所移転費用としても計上してあった「雑費」から支出して行いました。